

令和元年度市立芦別病院における医療事故等の一括公表

レベル	件数			説明	
	令和元年度	平成30年度	差引増減		
インシデント	レベル0	23件	30件	-7件	<p>内容:被害がなく観察が不要 <令和元年度の主な事例> ○透析開始前に点検をしたところ、必要な薬剤がセットされていないことに気付き、正しく装着した。 ○薬袋を戻すとき、誤って同姓患者の袋に戻したが、他看護師が発見して誤薬を防げた。 ○冷所保存の外用薬を冷蔵庫へ戻すのを忘れ、床頭台の上に置いてしまった。薬局に確認して廃棄した。</p>
	レベル1	250件	277件	-27件	<p>内容:何らかの影響を与えた可能性があり、観察の強化や検査の必要性が生じたが、患者さんには不利益がなかった。 <令和元年度の主な事例> ○トイレへ行った帰りにふらつき、近くに看護助手がいたが、支えるのに間に合わず尻もちをついた。 ○介助入浴から戻った患者さんに、酸素の装着を忘れたが、他の看護師が気付いて装着した。酸素飽和濃度(注1)は99%で低下は見られなかった。 ○胃ろう(注2)から栄養を注入している途中に接続が外れ、栄養が漏れてシーツを濡らしてしまった。</p> <p>(注1)血液中に酸素がどれだけあるかの指標(基準値は95~99%) (注2)直接胃に栄養を注入するためにお腹から管を通す医療措置</p>
	レベル2	37件	49件	-12件	<p>内容:簡単な処置のみで、患者さんの生活に支障を与えなかった。 <令和元年度の主な事例> ○離床センサー(注3)が鳴り訪室すると、離床マットの上に座り、同室者から転んだようだと言われ報告を受ける。右手背に皮膚剥離があり処置を行った。 ○心電図モニターの電極外れアラームで訪室すると、気管カニューレ(注4)を自己抜去してゴミ箱に捨ててあった。日直医師が再挿入した。</p> <p>(注3)体重がかかるとセンサーが反応し、転倒、転落を予防するベッド横の床に敷くマット</p>
計	310件	356件	-46件		
アクシデント	レベル3	4件	0件	4件	<p>内容:新たな病態・病名が発生して治療が必要となった。 <令和元年度の主な事例> ○ペースメーカー埋め込み術中、患者さんが痛みを訴え体動があったため、鎮静の薬液開始の指示が出された。アクチットでルートキープ(注5)し、側管から抗生剤を接続していた部分に鎮静薬も接続して開始したが、その後抗生剤を点滴した際に呼吸抑制を認め、アンビュー(注6)を使用して酸素開始した。鎮静薬を開始する際に焦って別ルートを確認できなかった。</p> <p>(注5)必要時に薬剤を直ちに投与することができるよう静脈内に針やチューブを留置する処置 (注6)口と鼻からマスクを使って人工的に呼吸を補助する医療機器</p>
	レベル4	0件	0件	0件	<p>内容:事故による障害が長期にわたって続く。 <令和元年度の主な事例> ○なし</p>
	レベル5	0件	0件	0件	<p>内容:事故が死因となった。 <令和元年度の主な事例> ○なし</p>
計	4件	0件	4件		
合計	314件	356件	-42件		